

大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2017 (平成 29) 年 第 45 週 (11 月 6 日～11 月 12 日)

今週のコメント

～ 感染性胃腸炎 ～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理を

定点把握感染症

「感染性胃腸炎 増加」

第 45 週は前週比 18.2%増の 2,105 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RS ウイルス感染症、手足口病、水痘の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 4.3、2.3、1.3、0.5、0.5 であった。

感染性胃腸炎は前週比 28%増の 852 例で、中河内 6.5、南河内 6.4、泉州 5.7、北河内 5.2 の順となっている。

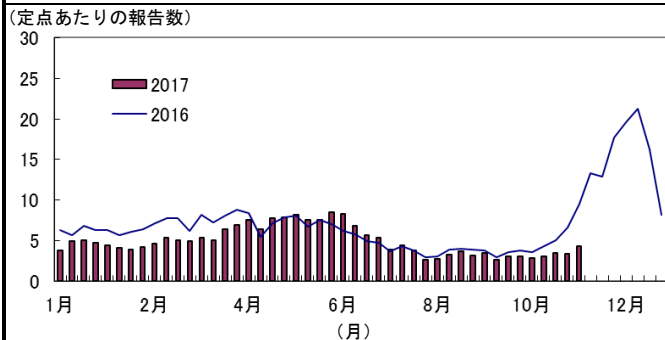
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 28%増の 451 例で、南河内 3.6、豊能 3.2、中河内 2.8 であった。

RS ウイルス感染症は 6%増の 268 例で、泉州 2.2、南河内 1.9、大阪市北部 1.8、堺市・北河内 1.6 である。

手足口病は 24%減の 107 例で、北河内・南河内 0.9、三島 0.8、泉州・中河内 0.7 であった。

水痘は 9%増の 105 例で、南河内 0.9、大阪市西部・北河内 0.8 である。

感染性胃腸炎



RSウイルス感染症

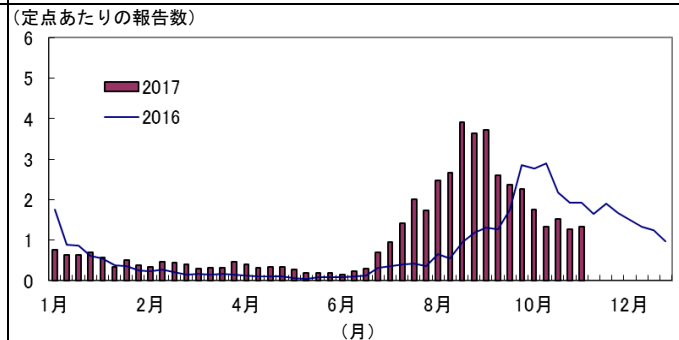


表1. 大阪府小児科定点把握感染症の動向 (2017 (平成 29)年 第 45 週 11 月 6 日-11 月 12 日)

第 45 週 の順位	第 44 週 の順位	感染症	2017 年 第 45 週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2016 年 第 45 週の 定点あたり 報告数	2017 年 第 45 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.3	28%増	9.5	1 歳_16%
2	2	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.3	28%増	2.2	5 歳_14%
3	3	RS ウイルス感染症	1.3	6%増	1.9	1 歳未満_38%
4	4	手足口病	0.5	24%減	0.4	1 歳-2 歳_54%
5	5	水痘	0.5	9%増	0.4	6 歳_18%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ 定点報告疾患)	0.3	18%増	0.5	20 歳以上_30%

第 45 週のコメント

～侵襲性肺炎球菌感染症～ 第 45 週までの累積報告数は、過去 4 年間で最多です

全数把握感染症

侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症は、感染症法上、肺炎球菌 (*Streptococcus pneumoniae*) による感染症のうち、この菌が髄液又は血液等の無菌部位から検出された感染症のことをいう。髄膜炎、菌血症を伴う肺炎、敗血症などが特に問題とされており、小児および高齢者を中心に患者報告がある。抗菌薬が有効であるが、近年薬剤耐性菌も多く報告されている。侵襲性肺炎球菌感染症の予防にはワクチンの接種が有効である。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

(累積報告数)

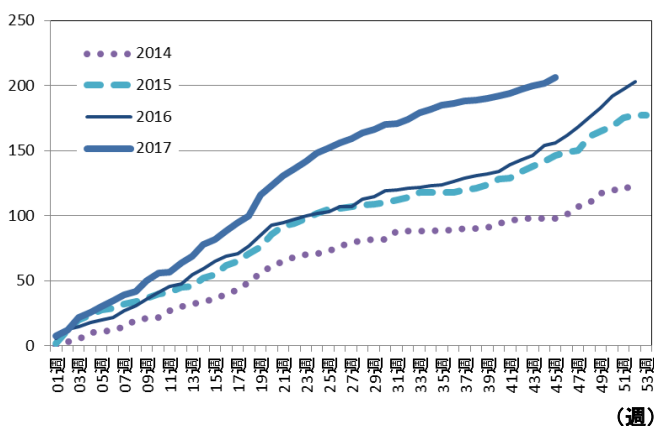


表 2. 大阪府全数報告数 (2017(平成 29)年 第 45 週 11 月 6 日-11 月 12 日)

*) 注意 : この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

3 類感染症	報告はありません
4 類感染症	報告はありません
5 類感染症 (麻しん、風しんは除く)	<p>アメーバ赤痢 1 名 (豊能ブロック 1 名、府内累積報告数 103 名)</p> <p>カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 名 (豊能ブロック 1 名、府内累積報告数 122 名)</p> <p>劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 名 (大阪市 1 名、府内累積報告数 19 名)</p> <p>後天性免疫不全症候群 2 名 (大阪市 2 名、府内累積報告数 151 名)</p> <p>侵襲性肺炎球菌感染症 4 名 (豊能ブロック 1 名、堺市 1 名、大阪市 2 名、府内累積報告数 207 名)</p> <p>梅毒 9 名 (南河内ブロック 1 名、堺市 1 名、大阪市 7 名、府内累積報告数 690 名)</p>
結核 (2017 年 9 月分)	<p>結核 新登録患者数 : 169 名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 81 名)</p> <p>(府内累積報告数 1443 名、内 肺・喀痰塗抹陽性 603 名)</p>
麻しん、風しん	報告はありません

(2017 年 11 月 14 日 集計分)